

令和4年度『光寿会事業計画』

① 実状の人員体制に合わせて地域ニーズに応えます！

介護・看護の実状の人員体制に合わせ、事業規模を『特養52床＋短期8床＝計60床』に変更。地域ニーズに応えるべく、短期入居事業は『週末開所』『最大4名』等限定的対応から再稼働。夜勤2名体制を基本とし対応。

【実状の人員体制を工夫しながら運営持続可能とする効果】

② コロナ対策尽力の一方でお年寄りの心と命を護ります！

終わりの見えないコロナ禍で感染症対策に万全を期す一方で、お年寄りの暮らしのストレス緩和に尽力する。感染対策をとった上での行事企画や大切なご家族との面会や外出実現に向けて思考と実践を諦めず試みたい。

【安全な環境整備と豊かな暮らしが共存できる効果】

③ 現場のケアに浸透させた苑内研修を目指します！

苑内研修は人材育成の柱の一つ。R3年度より実施の『1研修複数開催』や、研修後に研修内容を現場の職務の中で一定期間実施する形式は効果的。意識の向上やスキル定着化を図る実践的研修でR4年度も継続していく。

【実施義務のある研修内容をより日常内で研鑽させる効果】

④ 『防災』は心と体制、双方向から取り組みます！

“きつここは大丈夫…”という正常化バイアス(慢心や偏見)を見直す「心の防災」の意識向上のため、専門家による学びを取り入れたい。また、部分訓練を重ねて、より多くの職員が防災訓練に臨める場を設けたい。

【リアルな防災想定の中で個々の防災意識向上を図る効果】

⑤ 科学的介護システム『LIFE』を現場に活用します！

予め登録した利用者の基本情報・実施したケア・利用者の状態等のデータを分析し、ケア改善に関するフィードバックを行うシステム『LIFE』を導入。科学的にケアを検証し最良のケアを導き出しながら加算も獲得する。

【個別ケアを科学的視点から探求して実践に繋げる効果】

⑥ 明日の担い手に出遇える場づくりに貢献します！

人材確保の一環として町と町内事業所の協働で取組んでいる小中高校での『介護の魅力化事業』3年目。実話を基にした寸劇や介護のプラス志向の3Kを通じ、児童・生徒が介護に良いイメージを持ってもらえる様に臨む。

【介護の楽しさ・豊かさを働く私たちが発信し深める効果】

あいさつの心得

光寿会の基本姿勢 …『サービスとは、挨拶そのものに尽きる』

- ◎挨拶の「挨」は、
様々ないきさつを投げ捨てて、わが胸を開くことである。
(相手の胸を開かせることではない!)
- ◎挨拶の「拶」は、
「あなたが居てくれることが私の幸せです……」と、
わが胸に相手を抱きしめることである。

3つの基本姿勢

- ① 上司・同僚の話は、身を向けて（ヘソを向けて）、耳を澄まして聴く。
お年寄りを敬い、ニーズを知る訓練の基本。
- ② 居室に入るときは、一瞬立ち止まって、
「彼は今何を求め、何に悩んでいるだろうか」と黙想してから入る。
心の中に余裕を持つ基本。[他のお年寄りにも声掛けを忘れない事]
- ③ お年寄りとの会話は、ひざを折って、目の高さを同じにして話す。
お年寄りと、介護者が平等の立場で話し合うための基本。
特に、相手が興奮状態などのときの会話の基本。

★ 視線は適度に合わせる必要があります。私が全く視線を合わせないと、相手は「冷たさ・無視されている・無関心」を感じます。逆に、視界に入り込んで視線を合せ過ぎると「圧迫感」が生じます。適当に視線を合わせたり外したりすることが必要になってきます。

★ 要するに、24時間365日の認知症ではないですし、いつも興奮している訳でもありません。視界から外れて欲しい時だってあるものです。

⇒ そのような際の上質なコミュニケーション法としては、『縁側効果』（三好春樹氏）があります。横に座って、同じ景色（山、桜、お天気等々）を共有しながら、時折、視線を合わせる。そして、共有している景色をきっかけとした言葉を発してみる。これが程よく、よい印象や気分が残りやすいのです。

★ 最後に、関わるすべての人をつなぐことのできるコミュニケーションの最大の表現力は、『笑顔』です。人の習慣は、一般的な人で、21日間同じことを信念をもって続けていけば、その人のものに成るとされています。
心から笑顔で過ごせる習慣を心がけ、続けてみましょう。

(2) 会議・委員会体系図

別表15

